

記録 齊藤・久貴谷

参加者

保健福祉課 課長	與田様
保健福祉課 介護福祉係係長	笠原様
企画財政課政策推進室長	星村様
緑町町内会長	首藤様
緑町町内会副会長	松木様
緑町民生委員	松木 (久) 様
みどり会 代表	田本様
緑町内会	佐藤様
ご家族代表	中島様
函館新聞記者	鈴木様
スタッフ	中村 若狭 松村 齊藤 久貴谷

中 村：前回の会議で「おかいのものバス」について話し合い、その後町内会にお願いして回覧板を配布してもらった。私たちが作るとわかりづらいということもあり、保健福祉課長 與田さんにほぼ作ってもらった。行政が作ったほうが、町内会の方々がわかりやすく、理解しやすい言葉を使ってくれ、反省した部分もあった。月曜日は魚長、火曜日はラルズに「おかいものバス」を運行したが、利用状況を久貴谷から報告する。

久貴谷：当初利用登録は 5 名だったが、利用してくれた方々の口コミで、現在 10 名利用登録している。1 度も利用していない方もいるが、8 月は 1 人平均 2.3 回、1 日平均 1.8 名の利用、9 月は 20 日現在で、1 人平均 1.8 回、1 日平均 3 名利用となっており、開始当初から比べると、1 日に利用される人数が増えてきている。

中 村：次に利用された方の感想を若狭から報告。

若 狭：「今までタクシーを使っていたので、助かる」「今までは、帰りの荷物のことを考えて重いものが買えなかった」「無料だと、恐縮するため、お金を取ってほしい」「役場や他の場所（ホームセンター、薬局など）にも行ってほしい」「人数が少ないと利用しづらい」「買い物に時間がかかると車、他の方を待たせる事になるので申し訳ない」「たまには自分で選んで買い物したいと思っていた」「自宅までのお

迎えにしてほしい」「冬場の実施を希望」等の声がある。実際に運転手として参加してみて、今日は車だからもう少し買ってくるとレジに並んだ後に、追加した方もいた。例えば、自分で買い物に行くことで、みかんにしようと思っていたけど、グレープフルーツが安いから買おうという選択ができる。今まで近所の方が買い物に行く時にお願いして乗せていってもらっていたという方もいた。地域の方々と触れ合う機会であり、お話ししながら、自分自身も楽しんで行っている。

中 村：スタッフの感想を松村から報告。

松 村：「利用される方々が予想以上に喜んでくれてよかった。当初5名の登録が、参加してくれた方が声を掛けてくれ、現在10名利用登録されている。試行で行っている為そのままの形で遂行したが、待ち合わせ場所まで遠い方がいるため、登録された方の家を基準にもう少し近場で設定したらいいと思うが人数が多くなっていくと難しくなっていくと思った。」

「初めは気を使い、利用することを躊躇していた方もいたが、やっていくうちに利用される方が増えた。1回4名利用する日もあった。」

スタッフに気を使い、コーヒーをご馳走してくれる方もいた。

「買い物の不便さという事は理解できていたつもりだが、実際におかいものバス御利用者の生の声を聞いてみて、今までこの道を歩いて買い物に行っていたという事実を目の当たりにし、不便さという事を心底実感した。特に冬はハイヤーを使ったり、ソリを引いて買い物に行ったりと、たくさんの工夫や見えない労があったと思う。又、バス御利用者との車中の会話も、地域との交流の一環として接点が少なく、なかなか普段実施出来るものでなく、回を重ねるうちに顔なじみの関係が作れ、楽しく実施出来た。」

ソリで買い物して、行きは上りだからいいかもしれないが、帰りは下りになり、荷物が落ちてしまうこともあったと思う。そういう苦労を実感することができた。

中 村：スタート時利用者はゼロではないかという意見もあったが、10名の利用登録があった。ラルズ、魚長までの道のりが長く、先程のスタッフの感想にもあったが、「おかいものバス」を運行してみて、スーパーに行くまでの苦労があったということを実感した。また、地域の方との接点ができ、人間関係もうまれてくる。息子さんをお願いしていたが、自分で選んで買い物できることで介護予防にも繋がる。

首藤様：最初どのような方が利用するのかと思っていた。当初5名の利用登録だったので皆様に悪いと思ったが、10名になったという事を聞き、やっぱり利用したい方が

いるのだと思った。みんな喜んでいと思う。出来れば継続してほしい。

松木様：利用している方はありがたいと思っていると思う。町内会でも温泉に行っているが、利用する人もお世話する人も高齢者。社協のバスを借りて行っているが、入りづらい道もあり、実際に「家まで迎えに来てほしい」という人もいる。

「おかいものバス」に関しても家の前まで来てもらいたいという気持ちが出てくる人もいと思う。停留所がわからないという人もいようだが、わからないわけがない。停留所まで行くのがめんどろという気持ちもあるのではないか。

温泉に行っている人も「家の前まで来てくれると利用する」という人もいる。

家の前まで迎えに行くとなると70~80%に増えると思う。あとは、停留所を増やすと、もっと利用する人が増える。

笠原様：スタッフが関わっている時間はどれ位か。関わる時間が多いとスタッフも大変なのではないかという心配がある。

久貴谷：基本的には運行のみ。利用人数、時間にもよるが平均1時間前後。ただ、荷物は「お持ちしますか」と皆さんに声を掛け「大丈夫」という方もいれば「お願いします」という方もいる。

笠原様：交流目的もあるのであれば、移動時間にスタッフ、利用者だけでなく、利用者同士の交流の場にもなっているのではないかと思う。

若 狭：スタッフ、利用者もそうだが、移動中などに利用者同士で会話している。

ちょうど彼岸と十五夜の間期の時期くらいで、団子を2個買ったつもりが、3個買ったから、あげるというような会話も聞いたことがある。

佐藤様：実際に利用させてもらっている。普段は荷物が沢山持てないので、買うものを制限してしまう。「おかいものバス」がある日はビンなど重いものを買おうとか決めることができるため、喜んで利用させてもらっている。

余分に買うこともできている。

若 狭：今日は車だからと、いつもは小さいボトルの油を買っているが、大きいほうを買った方が安いため、そうした方がいた。

首藤様：最初は、どのような人が利用するか分からない状態で待ち合わせ場所を設定したので、今後もやっていくとすれば今の利用者に合わせ設定しなければならない。

中 村：買うから町にお金がおちている。また、高齢者は引きこもりがちになるが、地域の方との交流と自分で選んで買い物することによって、日常生活の張り合いにもなっている。

佐藤様：もう 1 回くらい回覧をまわしてもらえればと思っていた。利用していない方の中にも「便利だね」「いいね」という人はいる。

田本様：利用している方にとっては便利だと思う。続けてほしいと思う。チラシを見ても「期間限定」が強調されている印象で、3 ヶ月だけならやめようという人もいたのではないかな。

中島様：今は運転できているが、70 歳になり、他人事ではない。お買い物に関しては、心から心配している。スーパーで配達しているところもあるが、出来れば自分の目で見て選びたい。もし、自分の住んでいる地域でもやるとなれば、利用したいと思う。

中 村：配達を頼んでもいいが、週 1 回でも、月 1 回でも自分の目で見て物を買う。そうすることで、消費もあがってくるし、介護予防にもなる。

星村様：19 日に同乗し、車内の様子も見させてもらい、役場としても参考になった。閉じこもりがちな高齢者が多い中で「おかいものバス」は介護予防にもなると思った。同行し、感じた事は地域の輪もできるし、スタッフの対応も細やかで、いい経験をした。ただ、利用する方の要求が膨らんでくるのではないかと心配。

松木久様：「おかいものバス」を知らない人もいる。私も買い物に行った時知っている人と会うと「帰り乗っていくかい」と声を掛ける。そうすると「もう少し買ってくる」という人もいる。「おかいものバス」が浸透していないのではないかな。

松木様：車もっている人は浸透とか関係ない。利用している人の口コミで増えることの方がいいと思う。資格を持っている人が一緒に行くことが安心。

中 村：あくまでもボランティアなので、ホームとしては逆にリスクは大きい。手取り足取り手伝うためのものではなく、地域のコミュニティも目的としている。ヘルパーに頼むと介護保険料が上がる。でも、まだそこまでは大丈夫という人のためのもの。根本的に介護サービスを使っている方は、ヘルパーをお願いすればいい。実際に利用してからわかったことだが、デイサービスに行っている方もい

る。そのような情報は利用する前にはわからない。
いきがいデイサービスとして、介護サービスを利用する前の元気な方に利用してほしい。移動中に、お互いに口を言い合ったり、励まし合う場にしてほしい。

與田様：1ヶ月半での評価は難しいが、利用している方にとっては良い事だと思う。
バス停の問題にしても、限度がなくなってしまうたり、行きも帰りも家の前までだと、逆にためにならないという場合もある。8月も9月も継続して利用している方が多いということは、数字上から見ても、満足度は高い。
より一層浸透させていけば、利用者は増えると思う。
「お買い物」が目的ではあるが、コミュニティの場ともなっている。
地域の事業所だからできること。繋がりも深まり、うまくマッチングしている。
ただ、利用料が発生することによって、関係性は変わってくるかもしれない。
3ヶ月の試行で、どれ位コミュニティが深まるのか。買い物だけであれば限界がある。また、いつもは買わないものを買うようになることで、景気も上がる。

首藤様：他の地域から「すごくいいね」「教えてほしい」という意見もある。

中 村：全国の福祉施設が、地域と交流を図っていく中で、もちつもたれつの関係が出来ている。社協は地域福祉だが、行政に近い。民間の発想、行政の発想は全く違うが、お互いに力を合わせ、どのような形でやっていくのかが重要。今後行政が、実績のあるところに委託することも必要。そういう事をやってくれる事業所を作っていけばいいと思う。スタッフもやれと言われたから、やっているでは長続きしない。

與田様：「コミュニティバス」に関しては、老人クラブ、大沼の方々が率先して「いらない」という意見が多かった。行政としてやるといった時に、まず経費をどうやりくりするかという事になる。採算がないと難しい。

中 村：役場に公用車がある。役場の職員が運転してもいいのでは。

與田様：現在公用車は 公務以外で使用する事は法律上できない。

中 村：やろうと思えばできる。やる前提で考えれば、いろいろ発想が生まれる。
やってみようという気持ちが必要。言い分はお互い違うが、やってみてどうだったのか、老人クラブはいらないと言ったが、やってもいないで議論はできない。
消費が上がれば、税収も上がる。1ヵ月半後に役場から「こう考えている」という

意見やその上で継続するかどうかの検討ができればと思っている。アンケートの結果が全てではない。

松木様：登録ただけで、1回も利用していない人がある。登録した人も強制で登録した訳ではない。

中村：あくまでも登録制で、利用するかどうかは、本人しだい。
要介護者を今後どのように把握するか、どうやって区別していくかが問題。
冬場を希望している方もいる。あと1ヵ月後にはこんなのが出来たら良いなという回答が欲しい。

首藤様：緑町の地図に利用している方の場所を記入する。それを今後も継続してほしい。

松木様：登録した方が利用する場合にはどうするのか。

中村：8月は利用登録された方に朝連絡し、利用するかどうか確認していたが、現在は浸透してきたこともあり、利用する日をホームに連絡してくれるようになった。
役場としてどのように啓発していくのか。このままの形というわけではないが、いろいろな地域にお知らせするなどしなくてはならないのではないかな。

星村様：前向きに検討していく。

中村：する、しないではなく何か案があればもってきてほしい。
今回は函館新聞の鈴木さんにも来てもらった。鈴木さんから聞きたいことはないかな。

鈴木様：「おかいものバス」が運行する前は、週に何回くらい買い物をしていたか。

佐藤様：2週間に1回くらいだった。近所の人に買い物に行く時に乗せて行ってもらっていた。ビンなど重いものはあまり買えなかった。

鈴木様：「おかいものバス」を利用するようになって、どうか。

佐藤様：大きいお茶のボトルとか「おかいものバス」がある時に買うようにしていた。すごく助かっている。

松木様：確認だが、10月まで試験的に行って、その結果を踏まえて、冬はどうするかということを決めるのか。

中村：11月以降は白紙の状態。利用された方にも会議に出てもらい、直接意見を聞きたい。3ヶ月間やってどうだったか、冬場はどのような分類で必要か。スタッフがまとめたものではなく、本人に直接聞きたいと思っている。

他質問等ないため、終了とする。